

トマト黄化葉巻病の発生に注意し、 ウイルスをほ場に「入れない」対策を徹底しましょう！

平成24年産冬春トマトでは、調査開始の10月からトマト黄化葉巻病（TYLCV）発生ほ場が多く、作期の終わりまで広範囲で継続した発生が見られました（図1）。

本病原ウイルスは、タバココナジラミの吸汁によって媒介され、管理作業等（汁液、土壌、種子）では伝染しません。平成25年産冬春トマトで本病の発生を防ぐためには、媒介虫であるタバココナジラミや感染源となる罹病植物をほ場内に「入れない」対策の徹底が重要です。

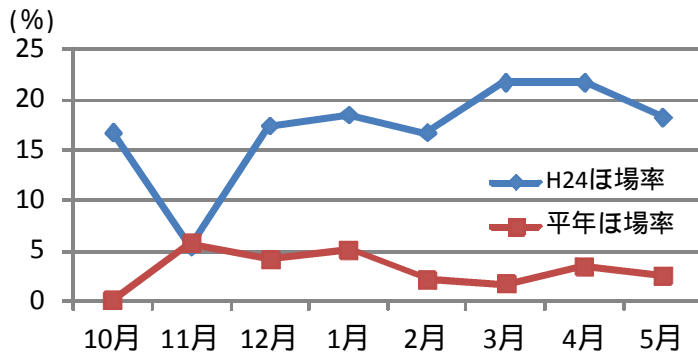


図1 冬春トマトにおける黄化葉巻病の発生ほ場率



写真1 黄化葉巻病に感染した苗

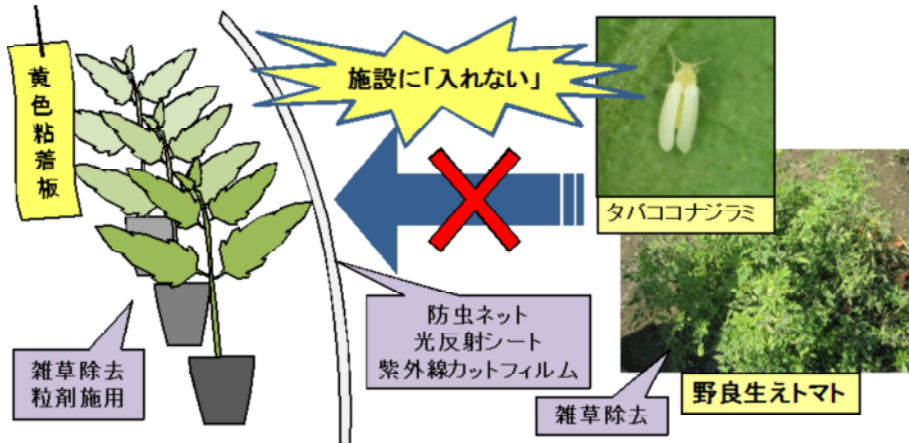


図2 防除対策

【育苗期～定植時の防除対策】

- ・ほ場内外の雑草は媒介虫の発生源となるため、除草を徹底する。
- ・ハウス開口部に0.4mm目以下の防虫ネットを張り、媒介虫の侵入を防ぐ。
- ・施設の出入口を二重（前室等）にして、媒介虫の侵入を防ぐ。
- ・ハウス周囲に光反射シートを設置し、媒介虫の侵入を抑制する。
- ・ハウスに紫外線カットフィルムを利用し、媒介虫の侵入とハウス内での分散を抑制する。ただし、紫外線カットフィルムはマルハナバチに影響があるので注意する。
- ・感染が疑われる苗や、媒介虫をほ場に持ち込まない。感染苗は土中に埋めるか、ビニル袋に入れて密閉し、枯死させてから処分する。
- ・黄色粘着板を設置し、媒介虫の捕殺と発生状況の把握に努め、発生初期に薬剤を散布する。
- ・育苗期や定植時に粒剤を施用し、媒介虫の寄生と増殖を防ぐ。

詳しくは、農業環境指導センター(<http://www.jppn.ne.jp/tochigi/>)までお問い合わせください。
また、当センター携帯サイト(<http://www.jppn.ne.jp/tochigi/keitai.htm>)もご利用ください。

Tel(028)626-3086 Fax(028)626-3012